



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月4日

上場会社名 味の素株式会社

上場取引所 東大

コード番号 2802 URL <http://www.ajinomoto.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 伊藤 雅俊

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 小林 幸彦

TEL 03-5250-8161

四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日

配当支払開始予定日

平成23年12月2日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	604,110	△1.9	42,594	2.0	44,132	4.7	25,715	45.8
23年3月期第2四半期	615,801	5.3	41,762	26.3	42,159	16.5	17,632	△18.6

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 △8,135百万円 (—%) 23年3月期第2四半期 1,973百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	37.52	—
23年3月期第2四半期	25.27	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	1,028,210	614,349	55.9
23年3月期	1,077,418	650,291	56.4

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 574,883百万円 23年3月期 608,191百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
24年3月期	—	8.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,220,000	1.0	71,000	2.3	72,000	2.1	38,000	25.0	55.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

平成23年5月9日に公表しました平成24年3月期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「平成24年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(注) 当四半期会計期間における連絡範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P5. 「2. サマリー情報(その他)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	678,980,654 株	23年3月期	700,032,654 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	2,279,247 株	23年3月期	2,255,060 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	685,476,618 株	23年3月期2Q	697,859,180 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しております。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料P4. 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は平成23年11月4日(金)に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(6) 重要な後発事象	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日～平成23年9月30日）における世界経済は、新興国の景気は緩やかに拡大したものの、原燃料価格や食糧価格の上昇、欧州債務危機による金融市場の不安等もあり、全体としては回復の動きは弱まっております。

わが国経済は、東日本大震災による生産活動の低下、消費の落ち込み等から持ち直しつつあるものの、電力不足、原子力発電所事故の影響に加え、急速な円高の進行等もあり、今後の景気の本格回復には依然として不透明なままに推移しました。

食品業界におきましては、緩やかなデフレの市況の中、食品原料の価格は上昇しており、厳しい環境が続きました。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期を116億円下回る6,041億円（前年同期比98.1%）となりましたが、利益面では、営業利益は前年同期を8億円上回る425億円（前年同期比102.0%）、経常利益は前年同期を19億円上回る441億円（前年同期比104.7%）、四半期純利益は前年同期を80億円上回る257億円（前年同期比145.8%）となりました。

セグメント別の概況

セグメント別の業績は、次のとおりです。

(億円)

	売上高	前期増減	前期比	営業利益	前期増減	前期比
国内食品	2,215	△31	98.6%	183	37	125.7%
海外食品	1,149	△3	99.7%	115	△35	76.5%
バイオ・ファイン	986	△16	98.4%	63	△2	96.4%
医薬	413	△5	98.6%	54	3	107.0%
提携事業	908	△37	96.0%	8	△0	97.8%
その他	368	△21	94.4%	0	5	—
合計	6,041	△116	98.1%	425	8	102.0%

(注) 1. 第1四半期連結累計期間より調整額を各セグメントに配賦し、前期数値も組み替えて比較しております。

(注) 2. 第1四半期連結累計期間よりアミノ酸サプリメント「アミノバイタル®」（国内分）は、その他事業に、家庭用・外食市場向け低カロリー甘味料（国内分）は、バイオ・ファイン事業に区分されております。

(注) 3. 国内外の食品加工業向け「アクティバ®」類および天然系調味料は、国内食品事業に区分されております。

(注) 4. 香港のアモイ・フード・グループの冷凍食品は、国内食品事業に区分されております。

(国内食品事業)

国内食品事業の売上高は、前年同期を31億円下回る2,215億円（前年同期比98.6%）、営業利益は、前年同期を37億円上回る183億円（前年同期比125.7%）となりました。売上高は、震災の影響もあり、前年同期をわずかに下回りましたが、営業利益は、販売費の減少等により、前年同期を大幅に上回りました。

<調味料・加工食品>

家庭用調味料・加工食品につきましては、中華だし類の売上げは順調に推移し、「ほんだし®」、うま味調味料「味の素®」、コンソメ、「Cook Do®」（クックドゥ）およびスープ類の売上げも前年同期をわずかに上回りましたが、マヨネーズ類およびケロッグ製品の売上げは前年同期をやや下回りました。

業務用調味料・加工食品につきましては、外食市場が震災からの回復傾向にあり、売上げは前年同期の実績を確保しました。食品加工業向けの食感や物性を向上させる食品用酵素製剤「アクティバ®」類の売上げは、国内では前年同期を下回ったものの、海外では欧州、中国で販売数量を伸ばし、堅調に推移しました。天然系調味料は、販売数量が減少したため、前年同期を下回りました。

<デリカ・ベーカリー>

弁当・惣菜等のデリカ製品の売上げは堅調に推移し、ベーカリー製品も、順調に売上げを伸ばしました。

<冷凍食品>

家庭用は、震災による一部商品の販売休止の影響はありましたが、主力品の「ギョーザ」の売上げが順調に推移し、「プリプリのエビシユーマイ」も堅調に売上げを伸ばし、「やわらか若鶏から揚げ」、「具だくさん五目炒飯」

等の米飯類の売上げも前年同期を大きく上回ったため、売上げは堅調に推移しました。業務用は新商品の貢献があったものの、震災後の外食、給食市場の低迷もあり、売上げは前年同期から微減となりました。

<飲料>

売上げは前年同期をやや下回りました。

(海外食品事業)

海外食品事業の売上高は、為替の影響もあり、前年同期を3億円下回る1,149億円(前年同期比99.7%)、営業利益は、為替の影響および原料価格の高騰もあり、前年同期を35億円下回る115億円(前年同期比76.5%)となりました。

<調味料>

アジアでは、「味の素®」および家庭用風味調味料の販売が順調に推移し、米州では、南米における家庭用風味調味料が順調に売上げを伸ばしました。欧州・アフリカでは、西アフリカ諸国における家庭用「味の素®」の売上げが前年同期を大きく上回りました。

<加工食品>

アジアでは、即席麺および粉末飲料「Birdy® 3in1」(バーディ スリーインワン)の売上げが好調に推移し、缶コーヒー「Birdy®」(バーディ)等の飲料も堅調に推移しました。

<加工用うま味調味料>

国内では、震災の影響を受け、食品加工向け「味の素®」、核酸ともに販売数量および売上げが前年同期を下回りました。海外では、食品加工向け「味の素®」は販売数量が減少し、売上げは前年同期を下回り、核酸は、競合会社の増産等の影響を受けて販売数量が減少し、売上げは前年同期を大きく下回りました。

(バイオ・ファイン事業)

バイオ・ファイン事業の売上高は、前年同期を16億円下回る986億円(前年同期比98.4%)、営業利益は、前年同期を2億円下回る63億円(前年同期比96.4%)となりました。

<飼料用アミノ酸>

トリプトファンの売上げは前年同期を大幅に下回り、スレオニンも前年同期をやや下回ったものの、リジンの販売が好調に推移し、売上げが前年同期を大幅に上回ったため、全体として売上げは順調に推移しました。

<医薬用・食品用アミノ酸>

欧州での売上げが前年同期を大幅に上回ったものの、北米では為替の影響により前年同期の売上げを下回るとともに、国内での売上げが販売の減少により、前年同期を大幅に下回ったため、全体として売上げは前年同期を下回りました。

<甘味料>

家庭用・外食市場向けの低カロリー甘味料の売上げは、前年同期並みとなりました。南米におけるアスパルテームを使用した粉末ジュース「Refresco MID®」(リフレスコ ミッド)の売上げは堅調に推移したものの、加工用の甘味料アスパルテームの売上げが、販売数量が減少するとともに為替の影響も受け、前年同期を大きく下回ったため、全体として売上げは前年同期を下回りました。

<医薬中間体>

売上げは前年同期を下回りました。

<化成品>

化粧品原料の売上げは、国内は前年同期をわずかに上回り、海外も堅調に推移しました。アミノ酸化化粧品「Jino®」(ジーノ)は、前年同期の売上げを下回り、コンピュータ用の層間絶縁フィルムは販売数量が減少したため、売上げは前年同期を大幅に下回りました。

(医薬事業)

医薬事業の売上高は、前年同期を5億円下回る413億円(前年同期比98.6%)、営業利益は、前年同期を3億円上回る54億円(前年同期比107.0%)となりました。自社販売製品の売上げは、震災による供給制限のあった製品の販売数量が減少したことに加え、主力品の売上げが伸び悩んだため、前年同期を下回りました。提携販売品の売上げも前年同期を下回りましたが、ロイヤルティ収入が増加したため、全体として売上げは前年同期並みとなりました。営業利益は、ロイヤルティ収入の増加やコストダウン等により、前年同期を上回りました。

自社販売製品では、成分栄養剤「エレンタール®」の売上げは前年同期並みとなりましたが、肝疾患用分岐鎖アミノ酸製剤「リーバクト®」、電解質輸液「ソリター-T」等の輸液類は、前年同期を下回りました。

提携販売品では、骨粗鬆症治療剤「アクトネル®」等のリセドロネート類の売上げは前年同期をわずかに上回りましたが、カルシウム拮抗降圧剤「アテレック®」は前年同期をやや下回り、糖尿病治療薬「ファスティック®」等のナテグリニド類は前年同期を大きく下回りました。

(提携事業)

提携事業の売上高は、前年同期を37億円下回る908億円（前年同期比96.0%）、営業利益は、前年同期を18百万円下回る8億円（前年同期比97.8%）となりました。

<油脂>

販売数量が減少したため、前年同期の売上げを下回りました。

<コーヒー>

売上げは前年同期から微減となりました。

(その他)

その他事業の売上高は、前年同期を21億円下回る368億円（前年同期比94.4%）、営業利益は、前年同期を5億円上回り61百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末の総資産は、前期末の1兆774億円に対して492億円減少し、1兆282億円となりました。これは主として、在外子会社の貸借対照表の円貨への換算額が減少したことや、自己株式の取得により現金及び預金が減少したことによるものです。

有利子負債残高は、前期末に比べて39億円減少し、1,293億円となりました。

純資産については、利益剰余金は増加したものの、為替換算調整勘定の変動や、自己株式の消却による資本剰余金の減少等から、前期末に比べて359億円減少しました。純資産から少数株主持分を引いた自己資本は5,748億円となり、自己資本比率は55.9%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

第2四半期連結累計期間における直近の業績の進捗を踏まえ、通期の業績予想の見直しを行った結果、平成23年5月9日に公表しました平成24年3月期の連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日発表の「平成24年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当社及び連結子会社は、税金費用については、当第2四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる会社については、重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	141,801	117,494
受取手形及び売掛金	195,465	193,496
有価証券	511	488
商品及び製品	87,445	91,926
仕掛品	7,370	7,139
原材料及び貯蔵品	40,495	39,825
繰延税金資産	11,204	12,009
その他	33,376	34,194
貸倒引当金	△1,238	△1,096
流動資産合計	516,432	495,478
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	350,654	338,577
減価償却累計額及び減損損失累計額	△209,127	△205,024
建物及び構築物（純額）	141,527	133,552
機械装置及び運搬具	508,083	485,855
減価償却累計額及び減損損失累計額	△391,574	△379,952
機械装置及び運搬具（純額）	116,509	105,903
土地	98,167	95,984
建設仮勘定	19,013	20,086
その他	69,345	68,919
減価償却累計額及び減損損失累計額	△56,513	△56,718
その他（純額）	12,832	12,200
有形固定資産合計	388,050	367,728
無形固定資産		
のれん	29,586	27,327
その他	35,901	34,425
無形固定資産合計	65,488	61,752
投資その他の資産		
投資有価証券	83,105	81,997
長期貸付金	1,060	1,037
繰延税金資産	10,090	8,517
その他	14,443	12,908
貸倒引当金	△988	△959
投資損失引当金	△264	△252
投資その他の資産合計	107,447	103,250
固定資産合計	560,986	532,731
資産合計	1,077,418	1,028,210

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	103,420	105,276
短期借入金	16,209	15,113
1年内返済予定の長期借入金	5,316	4,941
未払法人税等	7,900	9,052
賞与引当金	6,784	5,998
役員賞与引当金	360	185
資産除去債務	64	—
その他	78,286	67,632
流動負債合計	218,341	208,200
固定負債		
社債	69,989	69,990
長期借入金	39,282	36,794
繰延税金負債	15,591	14,596
退職給付引当金	58,554	60,167
役員退職慰労引当金	1,331	973
環境対策引当金	574	572
資産除去債務	540	578
その他	22,920	21,986
固定負債合計	208,786	205,660
負債合計	427,127	413,860
純資産の部		
株主資本		
資本金	79,863	79,863
資本剰余金	182,716	162,382
利益剰余金	414,189	434,082
自己株式	△2,514	△2,201
株主資本合計	674,255	674,126
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,339	921
繰延ヘッジ損益	△31	△171
為替換算調整勘定	△67,045	△99,723
在外子会社の年金負債調整額	△327	△269
その他の包括利益累計額合計	△66,064	△99,242
少数株主持分	42,099	39,466
純資産合計	650,291	614,349
負債純資産合計	1,077,418	1,028,210

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	615,801	604,110
売上原価	406,580	397,286
売上総利益	209,220	206,823
販売費及び一般管理費	167,457	164,229
営業利益	41,762	42,594
営業外収益		
受取利息	485	904
受取配当金	573	562
持分法による投資利益	1,473	1,048
その他	1,985	1,494
営業外収益合計	4,519	4,010
営業外費用		
支払利息	1,308	1,087
為替差損	853	—
その他	1,959	1,385
営業外費用合計	4,122	2,472
経常利益	42,159	44,132
特別利益		
投資有価証券売却益	220	332
その他	511	182
特別利益合計	731	515
特別損失		
固定資産売却損	49	723
投資有価証券評価損	8,028	9
災害による損失	—	1,313
その他	2,636	1,406
特別損失合計	10,714	3,452
税金等調整前四半期純利益	32,176	41,195
法人税等	11,294	12,458
少数株主損益調整前四半期純利益	20,882	28,737
少数株主利益	3,249	3,021
四半期純利益	17,632	25,715

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	20,882	28,737
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,267	△424
繰延ヘッジ損益	△7	△46
為替換算調整勘定	△19,482	△35,370
在外子会社の年金負債調整額	59	58
持分法適用会社に対する持分相当額	△745	△1,088
その他の包括利益合計	△18,908	△36,872
四半期包括利益	1,973	△8,135
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	422	△7,461
少数株主に係る四半期包括利益	1,551	△673

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内食品	海外食品	バイオ・ ファイン	医 薬	提携事業			
売上高								
外部顧客に対する売上高	224,713	115,293	100,271	41,932	94,585	39,004	—	615,801
セグメント間の内部売上高	3,252	3,368	2,777	64	63	31,917	△41,444	—
計	227,966	118,661	103,049	41,997	94,648	70,922	△41,444	615,801
セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)	14,581	15,144	6,545	5,133	828	△469	—	41,762

(注) 1. 「その他」には、健康ケア事業、包材事業、物流事業及びその他サービス事業が含まれております。

(注) 2. セグメント利益について、新算定方法ベースに組み替えて表示しております。算定方法の変更の内容につきましては、「II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

2. 地域に関する情報

(単位:百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	合計
売上高	414,949	96,530	58,738	45,583	615,801
連結売上高に占める比率	67.4%	15.7%	9.5%	7.4%	100.0%

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内食品	海外食品	バイオ・ ファイン	医 薬	提携事業			
売上高								
外部顧客に対する売上高	221,539	114,976	98,630	41,344	90,808	36,811	—	604,110
セグメント間の内部売上高	2,953	3,698	2,580	52	139	33,553	△42,977	—
計	224,493	118,674	101,210	41,397	90,947	70,364	△42,977	604,110
セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)	18,327	11,591	6,309	5,494	810	61	—	42,594

(注) 「その他」には、健康ケア事業、包材事業、物流事業及びその他サービス事業が含まれております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結累計期間より、社内の管理体制の変更に対応し、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を変更しております。

主な変更点は、各報告セグメントが売上高に応じて負担していた擬似ロイヤルティ・擬似コミッション制度を廃止した点、当社が採用している標準原価計算制度における原価差異のたな卸資産への配賦額および当社におけるたな卸資産の評価の調整額を計上する報告セグメントについて、「調整額」から該当する各報告セグメントに変更した点、および、当社の管理部門にかかる費用および一部の研究所費用である全社共通費について、売上高、総資産及び要員数の比率を用いて各報告セグメントへ配賦を行っている点等であります。

前期数値の新算定方法ベースの組替数値につきましては、「I 前第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）」の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

3. 地域に関する情報

(単位：百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	合計
売上高	401,758	99,968	58,977	43,404	604,110
連結売上高に占める比率	66.5%	16.5%	9.8%	7.2%	100.0%

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

(参考情報)

所在地別セグメント情報

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	連結
外部顧客に対する売上高	428,304	86,878	57,056	43,561	615,801
営業利益	19,638	12,704	4,884	4,534	41,762

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	連結
外部顧客に対する売上高	413,106	89,207	57,790	44,005	604,110
営業利益	23,760	11,486	3,764	3,583	42,594

(注) 1. 国又は地域区分は、地理的近接度により区分しております。

(注) 2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア: 東アジア及び東南アジア諸国

米州: 北米及び南米諸国

欧州: ヨーロッパ及びアフリカ諸国

(注) 3. 社内の管理体制の変更に対応し、所在地別セグメントの利益又は損失の算定方法を変更しております。「調整額」について、売上高、総資産及び要員数の比率を用いて、各所在地別セグメントへ配賦しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成23年5月9日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議しました。これを受け、信託方式による市場買付の方法により平成23年5月10日から平成23年7月15日までに普通株式21,052,000株、19,999百万円の取得を行いました。

また、平成23年8月30日開催の取締役会において、会社法第178条に基づき自己株式の消却を行うことを決議し、平成23年9月16日、普通株式21,052,000株を消却しております。これにより、資本剰余金および自己株式がそれぞれ20,334百万円減少しております。

消却後の当社の発行済株式の総数は、678,980,654株となります。

(6) 重要な後発事象

1. タイ国の洪水被害に関して

タイ国では、豪雨に伴う洪水により、各地で被害が発生しております。現時点における当社のタイ国でのグループ会社の主な状況は、以下のとおりであります。

(1) 被害状況

アユタヤ県サハラッタナナコン工業団地にある、タイ味の素カルピスビバレッジ社、また、同県ハイテック工業団地にある、タイ味の素冷凍食品社は、浸水により操業を停止しております。

また上述以外にも、パトンタニ県にあるパトンタニ工場、配送センター及び隣接するラルングオ包装工場についても、操業を停止しております。

(2) 連結財務諸表への影響

被害額につきましては、現在調査中であります。但し、建物・機械・在庫などの資産等を対象とした損害保険を付保しております。

2. 会社分割

当社は、平成23年11月1日付で、当社が営む飼料用アミノ酸事業の一部を会社分割し、平成23年9月1日に当社の全額出資により新設した味の素アニマル・ニュートリション・グループ株式会社（以下、AANG社）に承継いたしました。

会社分割の概要は次のとおりであります。

(1) 会社分割の目的

当社は、飼料用アミノ酸事業の運営をAANG社に移管することで、グローバルでダイナミックな環境の変化に対するセンスを高め、またAANG社による事業の統括化をすすめることで機動的な意思決定と効率的な事業運営体制を実現します。これにより競争体制の強化に注力いたします。

(2) 会社分割の方式

当社を分割会社とし、当社100%子会社であるAANG社を承継会社とする吸収分割です。

(3) 分割期日（効力発生日）

平成23年11月1日

(4) 吸収分割に係る割当の内容

当社は本会社分割に関し、AANG社が新たに発行する普通株式4,090株の割当交付を受けました。

(5) 権利義務の承継

吸収分割契約書の記載に従って、当社の飼料用アミノ酸事業の一部に関する権利義務は、AANG社が承継いたします。

(6) 債務履行の見込み

本分割において、当社及びAANG社が負担すべき債務の履行の確実性については、問題はないものと判断しております。

(7) AANG社の概要

事業内容：飼料用アミノ酸を含む動物栄養事業を営む会社等の株式の所有を通じた当該事業の統括・管理および当該動物栄養事業

資本金：500百万円（平成23年11月1日現在）

(8) 承継する資産及び負債の総額

資産額は40,905百万円、負債の額はありません。